

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	西岡美智子
2. 審査委員	主査：（兵庫教育大学教授） 松村 京子 副主査：（岡山大学教授） 伊藤 武彦 委員：（兵庫教育大学教授） 鳥越 隆士 委員：（兵庫教育大学教授） 宇野 宏幸 委員：（兵庫教育大学准教授） 岡本 希
3. 論文題目	音声言語と手話による言語指導時の先天性聴覚障害幼児の視線に関する研究
4. 審査結果の要旨	<p>教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 西岡美智子 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成30年8月11日（土）15時00分～15時30分 場所：兵庫教育大学 神戸ハーバーランドキャンパス 演習室4</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>序章</p> <p>聴覚に障害があると、聴覚的な情報や音声言語の入力が少なく断片的となる。特に言語習得前に聴覚に障害がある場合には、言語の習得やコミュニケーションに困難が生じるため、早期教育が重要となる。</p> <p>特別支援学校幼稚部教育要領（文部科学省，2017）では、保有する聴覚や視覚的な情報などを十分に活用して言葉の習得と概念の形成を図ることが示されている。そして実際に、特別支援学校（聴覚障害）幼稚部の名詞指導場面では、絵・写真法が最も多く（王，2012），幼稚部から高等部までのコミュニケーション手段は、聴覚口話と手話付きスピーチが80～90%を占め（小田・原田・牧野，2008），7割以上の教員が絵本をよく指導に用いていた（陳・茂木・鄭，2013）と報告されている。</p> <p>そこで本論文では、特別支援学校（聴覚障害）で多く使用されている音声言語を伴う絵カード提示、日本語対応手話、絵本の読み聞かせの3つの場面を取り上げ、聴覚障害幼児の話し手の顔と絵や手話などへの視線を測定し、聴覚障害幼児がいずれの領域に関心を持ち、情報を得ようとしているのかを明らかにすることを目的とした。</p> <p>第1章 絵カード提示場面における幼児の視線（研究1）</p> <p>親しみのある言葉の単語絵カードと親しみのない言葉の単語絵カードの2種を用い、幼児の視線停留の仕方に違いが生じるかを明らかにすることを目的とした。</p>

研究対象は、特別支援学校（聴覚障害）幼稚部に在籍する聴覚障害以外の障害がみられなかった3, 4, 5歳児の幼児20名（男12, 女8）であった。本研究は倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認第12号）。視線測定にはアイトラッカーを用い、測定が可能であった20名を分析対象とした。

その結果、親しみのない言葉の単語絵カードの方が親しみのある単語絵カードより絵に頻繁に視線停留し、親しみのない単語の絵への関心が強いことが示唆された。また、絵カードの親近性に関わらず幼児は話し手の口を長く注視し、口形や口の動きから情報を読み取ろうとしていたことが示唆された。

第2章 日本語対应手話使用場面における幼児の視線（研究2）

日本語対应手話の話し手に対し、幼児のコミュニケーション手段（音声のみ・手話を伴う）で視線停留の仕方に違いが生じるかを明らかにすることを目的とした。

その結果、コミュニケーション手段に関わらず幼児は話し手の口に頻繁に長く視線停留し、話し手の口に最も関心を持ち、口形や口の動きから情報を読み取ろうとしていたことが示唆された。

第3章 絵本の読み聞かせ場面における幼児の視線（研究3）

音声言語のみと音声言語に手話を伴う二通りの絵本の読み聞かせを行い、読み聞かせ方により幼児の読み手、絵本の文字や絵、手話の手への視線停留に違いが生じるかを明らかにすることを目的とした。

その結果、手話なしでは読み手の口、次いで文字、手話ありでは読み手の目、次いで口を注視し、いずれの読み聞かせ方でも読み手の口から情報の読み取りを行っていることが示唆された。また、いずれの読み聞かせ方においても幼児は人物の絵に最も頻繁に視線停留し、主人公である人物の絵への関心が強いことが示唆された。

終章

いずれ研究においても、聴覚障害幼児は話し手（読み手）の口形や口の動きから情報の読み取り、口への視線が重要であることが示唆された。これらのことから、視覚的な情報や絵本の提示方法として、関心の強かった絵に先に視線を誘導してから話すなど、話し手（読み手）の口と絵のそれぞれに視線を向けて情報を得やすくする工夫が必要と考える。

2. 審査経過

論文公聴会に引き続き開催された審査委員会において、論文内容について質疑が行われた。特に、論文の構成、実験方法、被験児、研究結果の教育への活用などについて質疑が行われた。質疑を通して、本論文「音声言語と手話による言語指導時の先天性聴覚障害幼児の視線に関する研究」の成果は、独自性、発展性において高く評価された。さらに今後の聴覚障害児の研究及び教育に貢献するものであることが確認された。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 西岡美智子 の提出した学位論文が博士(学校教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。